

令和元年6月24日

宮津市議会議長 北仲 篤 様

総務文教委員会
委員長 長林 三代

総務文教委員会 所管事務調査報告書

本委員会は去る平成30年8月22日の委員会において、所管事務調査のテーマを「インバウンドを中心とした観光について」と決定した。

このたび、テーマについて委員会として取りまとめを行ったため、最終報告を行う。

調査概要については、次のとおりである。

1 調査日

平成30年	8月22日	所管事務調査事項の議決
	10月25日	執行部（企画部）との意見交換
	11月13日	三重県志摩市へ先進地視察調査
	11月15日	和歌山県田辺市へ先進地視察調査
平成31年	1月15日	視察報告、執行部との意見交換
	4月15日	宮津天橋立観光旅館協同組合との意見交換
	4月23日	調査研究
令和 元年	5月17日	調査研究
	6月12日	所管事務調査報告書の議決

2 調査内容

所管事務調査のテーマを決定するにあたって、年間300万人が訪れる宮津市の大きな産業である観光でどう稼ぐのか、伊根も含めて天橋立の魅力をどう伝えていくのか、舞鶴に寄港するクルーズ船からの誘客の取り組みができないか、旅館関係や漁業関係など現場の実態調査も大事だ、現場の声を聞き課題をつかむことが大切だなどの意見が出た。訪日観光客が増える中で、観光名所を生かし雇用の創出を図るにはどのような取り組みが必要なのか、インバウンドを中心に調査することとした。

調査に当たり、執行部から関係資料の提出と現状説明を受けた。

先進地事例として、農林水産業と一体で少量多品種を生かした新商品の開発

に力を入れ、観光消費額を上げる努力をしている三重県志摩市や、笑顔溢れる暮らしと地域を支えることを目的とした和歌山県田辺市の「田辺市熊野ツーリズムビューロー」の世界遺産の道に人の歩く風景を作る取り組みについて視察を実施した。

また、本市の「宮津天橋立観光旅館協同組合」のインバウンドに特化したメンバーの皆さんと懇談を行い、ゴールは世界遺産であり、10年後、20年後には欧米の観光客に来てもらえる観光地づくりに向けた情報発信の在り方や、体験などの付加価値、年間通して松並木を使う魅力ある観光地づくり、環境と景観を守るための取り組みなど意見や要望を聴取した。

3 委員会で一致した意見

調査テーマについて、委員会として一致した意見は以下のとおりである。

「インバウンドを中心とした観光について」

- ① 外国人の目線で更なるまちづくり施策をすすめられたい。
- ② 外国人観光客が地域を深く理解し、次また訪れたいと思う環境整備のために、交通情報、神社仏閣や砂浜、祭りの映像など、QRコードの活用も含め、観光情報にアクセスできるプラットフォームの整備をされたい。
- ③ 外国人観光客に安心して訪れていただくために、公衆無線LAN（Wi-Fi）と個店のWi-Fi整備との費用対効果を考慮し進められたい。また、将来における5G通信網の整備と宮津市が整備したNTT光ファイバー網の活用も含め様々な方法も考慮されたい。